令和６年度　研究概要

<table>
<tr><td colspan="2">所属名
教育相談センター</td><td>研究会議名
個別最適な学び（教育相談）研究会議</td></tr>
<tr><td>研究主題</td><td colspan="2">アセスメントに基づく不登校児童生徒への個に応じた支援
―ゆうゆう広場におけるアセスメントシートの活用を通して―</td></tr>
<tr><td>育成を目指す資質・能力</td><td colspan="2">自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立していこうとする資質・能力</td></tr>
<tr><td>研究内容</td><td colspan="2">令和元年には、「不登校児童生徒への支援の在り方について（通知）」（令和元年 10 月 25 日付け元文科初第 698 号）が発出され、不登校児童生徒への支援に対する基本的な考え方として、「不登校児童生徒への支援は、『学校に登校する』という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要があること。」といった支援の視点等が示されている。
令和４年度の国立、公立、私立の小・中学校の不登校児童生徒数は、299,048 人と過去最多となり、うち学校内外で相談を受けていない児童生徒数も過去最多の 114,217 人おり、不登校が生徒指導上の喫緊の課題となっている。川崎市でも、不登校児童生徒数は年々増加傾向にあり、令和４年度の不登校児童生徒数は 2,816 人で過去最多となっている。
そのような現状の中、川崎市では、「ゆうゆう広場」が、不登校児童生徒の社会的自立に向けた支援のための居場所としての役割を担っており、ここ数年登録者数が少しずつ増えてきている。令和５年度は 252 人の登録があり過去最多となった。しかし、1 日当たりの平均利用者数は、令和元年度をピークにここ数年の伸びは緩やかである。
本研究会議では、「個別最適な学び」の視点から、ゆうゆう広場において的確なアセスメントにより不登校児童生徒の個々のニーズを見極め、個々の状況や状態に応じた適切な支援や手立てをすることが、これまで以上に大切であると考えた。特に、アセスメントシートの活用に着目し、「個に応じた具体的な支援のためには、アセスメントシートの活用がより有効なのではないか」との仮説を立て、着目児童生徒を追いながら検証を進める。検証にあたっては、継続的なアセスメントを考慮したシートの工夫を検討する。その上で支援会議を行い、ゆうゆう広場の相談員が児童生徒に対する共通理解のもとに支援の方向性を共有しながら、相談員同士が足並みを揃えて児童生徒へ支援を行っていくことの効果を検証していく。</td></tr>
</table>